

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y101
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キャリアキョウイクイチ キャリア教育 I		演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	専門学校生として学ぶことの意義を明確にする。また、職業教育の礎となる業種・業界・職種についての基礎知識を身に付ける。				
思考力・判断力・表現力	自らの未来を作り出すのは自分自身であるという責任感や判断力を身に付け、在学中の履修計画を通じて将来設計を行うことができる。				
学びに向かう力	学ぶことと働くことの意義が重なり合い、専門学校生活が職業人生の始まりであることを自覚できる。				
授業の概要					
専門学校生として“何のため”に知識や技術を身に付けるのかを明確にするとともに、各授業が職業と深く結び付いていることを理解する。また、目標資格や習得すべき技能と目指す職業との関連性や、職業人としての在り方と必要なビジネスマナーなどを履修する。これにより職業教育を行う専門学校の学生としてのマインドを醸成する。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業中に実施した実習ごとに報告書を作成・提出・評価を受ける。 授業記録提出による日常評価により決定する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> よくわかる〈改訂3版〉自信がつくビジネスマナー (FOM出版) 教員が配布する自作資料 					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. 専門学校生のキャリアデザイン		2			
2. 働くことの意義、社会人の心構え、 職業教育と業種・業界・職種の基礎知識		2			
3. 挨拶と礼儀作法		2			
4. コミュニケーション① (話し方)		2			
5. コミュニケーション② (聞き方)		2			
6. 報告・連絡・相談のマナー		2			
7. メール・チャットのマナー		2			
8. 就職活動準備		1			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)	時間数は45分換算	年度	2026年度
		科目コード	NJB26Y105

授業科目名		授業形態		学科・コース	
シャカイジンスキルキン 社会人スキル基礎		講義・演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	込山 まゆみ

授業の目的・目標 (科目のねらい)

知識・技能	ビジネスマナーを通して社会人として実習生としての意識と具体的行動を学んでいく
思考力・判断力・表現力	保育士(社会人)になった後、その場で自分で考えて行動できる力を養う
学びに向かう力	コミュニケーションが大切な学科なので、グループワークでは周りとの協力して課題に取り組む

授業の概要

「信頼される保育士」を目標に、社会人として必要なビジネスマナーを学んでいく。信頼されるにはどうしたら良いのか?を考えながら行動や見た目など自分で意識できるように学んでいく。

成績評価基準

<ul style="list-style-type: none"> ・期末に実施する本試験、授業記録提出による日常評価により決定する。 ・授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 ・期末に実施する筆記試験において60点以上であること。 ・授業中に実施した実習ごとに報告書を作成・提出・評価を受けること。 	筆記試験 50% 課題 30% 日常評価 20%
--	--------------------------------

使用テキスト・教材

ビジネスマナー 自分プロデュース vol I (有)グロー

授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)

	時間数		
1. 概要説明	2	8. 接遇	2
2. 社会人の定義(マナーとルール)	2	8-1 来客応対	2
3. 立ち居振る舞い	2	8-2 上座・下座	2
4. コミュニケーション	2	9. ビジネス文書	2
5. 言葉遣い	2	10. ビジネスメール	2
5-1 敬語の使い方	2	11. 冠婚葬祭	2
5-2 ビジネス的慣用表現	2		
6. 報連相	2		
7. 電話対応	2		

その他

実務経験がある教員が担当する科目である

関連科目

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y108
授業科目名		授業形態		学科・コース	
アイシーティーキッズ ICT基礎		演習	対面 メディア	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	渡邊 尚明
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	Windows PC の基本操作や主要ツールの基本的な設定・操作方法を習得し、情報活用に必要な知識と技能を身につける。				
思考力・判断力・表現力	状況に応じた操作方法を自ら考え判断する力、適切に情報を扱い表現する力を養う。				
学びに向かう力	安全に ICT を利用するための基礎的なリテラシー、情報社会で必要な態度・意識を持つ。				
授業の概要					
WindowsPC を扱うにあたり必要な基本設定や操作を確認しながら実際に操作して覚える。授業および学校で使用するツール (Teams、メール、Word、Excel) についても基本事項を実際に操作して覚える。また、安全にインターネットおよびPC を使うための ICT リテラシーを講義中心で学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごと実施する確認課題の提出により評価する。 ・授業の20%を超えて欠席した場合は不可 (試験を受けられない) とする。 					課題 100%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・教員が配付する自作資料、説明動画 ・(パワーポイント) 5つの分野の ICT リテラシーを学ぼう (総務省公表の教材) 					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
			時間数		
1. PC 設定 (各種ツール含む)			4		
2. Windows 操作			4		
3. Teams の使い方			2		
4. メール の使い方			2		
5. ICT リテラシー			2		
6. PC の基本的な仕組み			1		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26115
授業科目名		授業形態		学科・コース	
エイカイワ 英会話		講義	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	笹原 涼子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	日常の会話を英語で楽しむことができるようにするために、簡単な会話に欠くことができない基礎を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	言いたいことが伝わらない場合でも、別の言い回しやジェスチャーで工夫して伝える力や、完璧に話せなくても、コミュニケーションを取ろうとする積極性を持つ。				
学びに向かう力	実践的な場面で応用する力や、継続的に学び続けることで、よりスムーズで自信のある英会話を身に付ける。				
授業の概要					
日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身の事を表現することができるようになることが目的となる。「聞く」「話す」「読む」「書く」という英語の4技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知ることによって自分自身の英語力を高めていく。					
成績評価基準					
試験の成績とともに、小テスト、レポートの状況を踏まえて評価、採点する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。				筆記試験	40%
				レポート	30%
				小テスト	30%
使用テキスト・教材					
Happy English for Childcare (短大指定テキスト)					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. Hi, I'm Yuri Tanaka. Word		2			
2. Where is the Multi-purpose room?		2			
3. Good Morning. How are you today?		2			
4. What color do you like?		2			
5. There's a ladybug on the leaf.		2			
6. It's time to play outside.		2			
7. She is allergic to eggs.		2			
8. You should go to the bathroom.		3			
その他		関連科目			
		英会話 IS			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26116
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ケンコウカガク 健康科学		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	望月 満美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	健康と体力、およびスポーツについて学び、生活の基盤となる健康を自ら意識し増進していく知識と態度を養う。				
思考力・判断力・表現力	健康に関するデータやエビデンスを基に、科学的に正しい情報を判断する力。				
学びに向かう力	身体的・精神的な健康を維持・増進するための科学的知識を学び、健康に関する理論を実生活に活かし、より良い生活習慣や環境作りを実現する。				
授業の概要					
健康の維持増進に関する幅広い科学的知識の習得を目的とし、身体・栄養・心理の総合的な健康理解と実践的活用能力を幅広く深く学ぶ。短大の教科書を参考にしながら、スポーツの歴史と現状、健康の概念の変遷と現代の健康問題、体力の概念とトレーニングについて、考えながら学習する。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度、授業記録提出による日常評価により決定する。 短大レポート、科目終末試験の取り組みを総合して評価する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 ※短大の成績は、科目終末試験の合格をもって単位習得とする。				短大試験	30%
				レポート	30%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
生涯スポーツ・健康科学(近畿大学九州短期大学)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. スポーツの概念		2			
2. 社会生活の変化とスポーツ		2			
3. スポーツ参加の現状と課題		2			
4. 国民スポーツ発展のために		2			
5. 健康の概念		2			
6. 体力の概念		2			
7. 運動不足の実態		1			
8. 生活におけるトレーニング		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26117
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ニホンコクケンポウ 日本国憲法		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	堀 保彦
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	憲法を体系的に修得するとともに、現代社会における憲法問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるようになる。				
思考力・判断力・表現力	社会のあり方を考える際の基盤となる思想を学ぶ。				
学びに向かう力	現代社会における法や権利のあり方を考える姿勢や、社会的な課題への主体的な取り組み方を身につける。				
授業の概要					
日本国憲法は、国民の自由と権利を守り、自由で公正な社会を築くことを目指す法です。本授業では、日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則とそれを実現するための統治機構を概説し、私たちと憲法の関わりについて考えます。最終回の授業で現代社会における憲法の問題点についてプレゼンテーションをしていただきます。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業記録提出による日常評価により決定する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 短大レポート、科目終末試験実施科目である。 ※短大の成績は、科目終末試験の合格をもって単位習得とする。				筆記試験	40%
				課題	30%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
教科書：『日本国憲法』下村孝(近畿大学九州短期大学通信教育部)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 憲法とは何か	2	9. 精神的自由権			2
2. 明治憲法から日本国憲法へ	2	10. 表現の自由			2
3. 天皇主権から国民主権へ	2	11. 経済的自由権			2
4. 象徴天皇制・天皇の国事行為	2	12. 社会権			2
5. 平和主義	2	13. 人身の自由、参政権			2
6. 基本的人権総論	2	14. 統治機構の原理、議会制度・			2
7. 幸福追求権	2	権力分立			
8. 法の下での平等	2	15. プレゼンテーション(現代社会における憲法の問題点について)			2
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26118
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジョウホウショリニューモン 情報処理入門		講義	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必須	15	1	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	コンピュータの発達過程やハードウェアの仕組みについて学ぶ。また、インターネットを活用し、最新技術や動向について学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	情報処理の基本的な概念や用語を素早く理解し、実践に活かす力を身につける。				
学びに向かう力	コンピュータの基本的な使い方やデータ処理、プログラミングの基礎、デジタル社会での情報の扱い方を学び、情報の効果的な活用や問題解決能力を高め、現代社会でのデジタルリテラシーを強化する。				
授業の概要					
出席が必要であり、保育などの仕事の現場で情報処理に関する話題・用語が出た場合に、その話の内容を理解し、自分なりに判断できるレベルの知識を習得する。さらに、IT化の社会問題、健康問題を取り上げる。					
成績評価基準					
期末に実施する本試験、レポート、授業時に提示した課題提出と日常評価により決定する。 ・期末に実施する筆記試験において60点以上であること。 ・授業中に提示した課題を70%以上提出すること。 ・授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。				筆記試験	50%
				課題	30%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
「情報処理入門」近畿大学九州短期大学通信教育部					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. 情報処理の基礎		2			
1-1. 情報とは		2			
1-2. データの表現方法		2			
2. コンピュータシステム		4			
2-1. コンピュータの歴史		4			
2-2. コンピュータの5大装置		4			
3. ソフトウェア		4			
3-1. 基本ソフトウェア		4			
3-2. 応用ソフトウェア		4			
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26120
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シカイクシ 社会福祉		講義	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	人口高齢化の要因・影響や日本社会の特質について理解する。 医療・介護・年金・生活保護などの概要と課題について理解する。				
思考力・判断力・表現力	歴史的な経緯や現状の課題と法制度の関係性を意識する力を身につける。 社会現象や諸問題の背景にある文化や慣習を認識する力を身につける。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
世界で最も老年人口割合が高く、人口高齢化の著しい日本社会において、社会福祉の制度・サービスは重要な意味をもっている。本授業では、講義形式と資料解釈作業およびグループ考察を併用し、社会福祉の歴史的展開や人口高齢化の動向、社会保障と人びとの生活の関わりについて理解を深めていく。					
成績評価基準					
試験 (試験)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等 (課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など (学習意欲)、以上から総合的に評価する。なお、欠席した場合には教員から指示された課題を提出すること等が必要となる。授業の20%を超えて欠席した場合は不可 (試験を受けられない) とする。				筆記試験	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』(2023、鬼崎信好・本郷秀和編、講談社) 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
1. オリエンテーション・社会福祉の歴史と展開 (1) -明治期-	時間数 2	9. 社会保障制度 (2) -社会保障費用の推移と推計-	2		
2. 社会福祉の歴史と展開 (2) -大正期・昭和前半-	2	10. 社会保障と社会福祉 (1) -健康保険と国民健康保険-	2		
3. 社会福祉の歴史と展開 (3) -戦後から現代-	2	11. 社会保障と社会福祉 (2) -高齢者に関する医療制度-	2		
4. 人口高齢化 (1) -定義と老年人口割合の国際比較-	2	12. 社会保障と社会福祉 (3) -介護保険制度の概要-	2		
5. 人口高齢化 (2) -長寿化-	2	13. 社会保障と社会福祉 (4) -介護保険制度の特徴と課題-	2		
6. 人口高齢化 (3) -人口移動-	2	14. 社会保障と社会福祉 (5) -公的年金制度の概要-	2		
7. 人口高齢化 (4) -地域差-	2	15. 社会保障と社会福祉 (6) -生活保護制度の概要-	2		
8. 社会保障制度 (1) -社会保障制度の機能・財源方式・体系-	2				
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26121
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクゲンリ 教育原理		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	教育の本質と意義について基礎知識を知り、幅広くかつ原理的に学んでいく。教育に関する基本的な概念と知識の習得を図る。				
思考力・判断力・表現力	教育の基本理念や、教育が果たすべき社会的役割を理解する力。				
学びに向かう力	教育の本質や役割、さらには現代教育の課題に対する対応力を養う。				
授業の概要					
教育の理念と制度の基礎理解を目的とし、教育の目的・方法・歴史を踏まえ、現代教育の課題と学習者支援の在り方を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
『保育のための教育原理』（ミネルヴァ書房）					
授業内容・授業計画					
1. オリエンテーションー授業の概要	2	11. 保護者への支援と学校	2		
2. 子どもとは	2	12. 地域における学校	2		
3. 発達とは1ー発達の適時性	2	13. 教育の歴史（日本、世界）	2		
4. 発達とは2ー発達不全	2	14. 改めて教育とは	2		
5. 教育とは一人間形成、成長、発達	2	15.まとめ	2		
6. 教育の目的、内容、方法、計画1	2				
7. 教育の目的、内容、方法、計画2	2				
8. 教育を支える仕組みー制度・法律・行政	2				
9. 子どもへの支援と学校	2				
10. 教師とは	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y123
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジノシンリガク ----- 幼児の心理学		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	15	1	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	心理学の具体的な内容を学ぶことで、心理学が保育とどのように関係しているかを学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	幼児の発達段階（乳児期、幼児期）を理解する力。				
学びに向かう力	幼児の心の成長や発達のメカニズムを理解し、こども一人ひとりに適切な関わりを行うため、こどもの心理的な発達に寄り添うための知識やスキルを深める。				
授業の概要					
こどもの学習行動の概念を学び、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性・態度を肯定する価値観を軸にして、幼児の心理学について学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	授業の進め方と説明		2		
2.	第1章 第2章 保育と教育心理学		2		
3.	第3章 第4章 子どもの発達		2		
4.	第5章 第6章 学びの動機づけ		2		
5.	第7章 第8章 保育における評価		2		
6.	第9章 発達障害のある子どもの教育保育		2		
7.	第10章 保育の中で生かす教育心理学		2		
8.	まとめ		2		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y124
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ゾウケイヒョウゲン (シヨドウホウ)		演習	対面	こども保育科	
造形表現(指導法)					
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	望月 裕史
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育での表現活動を円滑にするために欠くことのできない適格な掲示物づくりや、児童の表現活動等における指導力を身につける。				
思考力・判断力・表現力	素材や技法を自由に使いこなし、個性豊かな造形表現を生み出す。				
学びに向かう力	モダンテックを中心とした作品制作をとおして基礎を身に付け、個々の表現力を伸ばしていく。				
授業の概要					
造形表現の意義理解と指導力の育成を目的とし、素材の特性を踏まえた表現活動と幼児への指導方法を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> 造形表現 (指導法) 絵具を中心とした画材 					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション		2	6. 2-3. バチック		2
① 授業のきまり			7. 2-4. スクラッチ		1
② 内容 ③ 評価について			8. 2-5. スパッターリング		1
2. デッサン		2	9. 2-6. たたきぼかし		1
①画鉛筆で各自持参した野菜など自然物を描く。毎回継続してデッサンを行う(6回)			10. 2-7. デカルコマニー		1
3. 色の学習を学びながらモダンテクニックの実習、作品作り		1			
4. 2-1. スタンピング		2			
5. 2-2. ドリッピング		2			
その他	関連科目				
<ul style="list-style-type: none"> ※单元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。 					

シラバス (授業概要)	時間数は45分換算	年度	2026年度
		科目コード	NJB26Y130

授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジトコトバ ----- 幼児と言葉		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	15	1	三枝 昌美

授業の目的・目標 (科目のねらい)

知識・技能	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために専門的事項に関する知識を身に付ける。
思考力・判断力・表現力	幼児の年齢に応じた言葉の発達段階を理解し、適切なサポートを行う力。
学びに向かう力	幼児の言葉の発達を理解し、適切な支援や環境を整えることで、幼児が自分の考えや感情を豊かに表現できるようにする力を身につける。

授業の概要

「言葉」の基本的な知識を習得する。幼児の言語発達理解を目的とし、ことばの獲得過程や表現の広がりを踏まえ、保育における援助の在り方を学ぶ。

成績評価基準

<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 期末に実施する筆記試験において60点以上であること。 	筆記試験 40% 課題 30% 日常評価 30%
--	--------------------------------

使用テキスト・教材

近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する

授業内容・授業計画

	時間数		時間数
1. 言葉の意義や機能	2		
2. 言葉の意義や機能	2		
3. 言葉の発達	2		
4. 幼児における児童文化財の意義			
5. 子どもの言葉と表現力	2		
6. 読み聞かせの意義と魅力、実践による工夫	2		
	4		
7. 言葉の発達と表現力	1		

その他

※実務経験のある教員が担当する科目である。

関連科目

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y131
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジトカンキョウ 幼児と環境		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。				
思考力・判断力・表現力	自然や生活環境の変化に気づき、細かい部分まで観察する力を育てる。				
学びに向かう力	「環境とかかわる力」の発達について理解し、子どもの育ちにとって大切にされているものを学ぶ。				
授業の概要					
幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。「環境とかかわる力」の発達について理解し、子どもの育ちにとって大切にされているものを学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 期末に実施する筆記試験において60点以上であること。 				筆記試験	40%
				課題	30%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1.	保育の基本と保育内容	1			
2.	領域「環境」のねらいと内容	2			
3.	「環境とかかわる力」への発達、理解	2			
4.	領域「環境」と保育方法	2			
5.	領域「環境」の変遷	2			
6.	領域「環境」と保育の実際Ⅰ(自然・身近な物の発達と表現力)	2			
7.	領域「環境」と保育の実際Ⅱ(文字・数量・地域社会)	2			
8.	領域「環境」と実践上の留意点(自然・身近な物・文字・数量)	2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y136
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジトニンゲンカンケイ ----- 幼児と人間関係		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	1	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼稚園教育要領の中の「人間関係」の分野に焦点を当て、理解を深める。				
思考力・判断力・表現力	自分の性格や感情、コミュニケーションの癖を理解し、他者との関わり方を見直す力を身につける。				
学びに向かう力	子どもは生活や遊びの場面で、関わりながら育っている。保育者を志す者として、乳幼児期の発達を見る視点、子どもが人と結び合い豊かに関わること、保育者としての対応を学ぶ。				
授業の概要					
領域「人間関係」に関する知識を得、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら、具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。					
成績評価基準					
期末試験 (50%)、授業態度 (50%)				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
1. 人間関係とは 自己紹介 授業の進め方	1	10. 子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点	1		
2. 領域「人間関係」の社会的背景	1	11. 幼児教育・保育と小学校との接続の課題	1		
3. 子どもの発達と人間関係	1	12. 幼児教育・保育における性をめぐる課題	1		
4. 領域「人間関係」のねらいと内容	1	13. 多文化共生社会における幼児教育・保育の課題	1		
5. 保育者のかかわり方と集団づくり	1	14. 3. 4. 5歳児のエピソードをまとめる	1		
6. 対話から生まれる「協同的な学び」	1	15. 3. 4. 5歳のエピソードまとめ、発表	1		
7. 幼児教育・保育におけるこども同士の関係	1				
8. 子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価	1				
9. 特別な支援を必要とする子どもの援助	1				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26135
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シヤカイトキョウゴイチ 社会的養護 I		講義	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	わが国における社会的養護の変遷や構造的特質について理解する。 施設養護と家庭養護における特徴や課題について理解する。				
思考力・判断力・表現力	歴史的な経緯や現状の課題と法制度の関係性を意識する力を身につける。 社会現象や諸問題の背景にある文化や慣習を認識する力を身につける。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
わが国は子どもの出生数が減少しているにもかかわらず、保護や養護を必要とする子どもは増加傾向にあり、社会環境の変化の中で社会的養護の必要性は高まっている。そのような状況を踏まえ、社会的養護の歴史・理論・体系、その特徴や課題などについて理解を深めていく。					
成績評価基準					
試験 (試験)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等 (課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など (学習意欲)、以上から総合的に評価する。なお、すべての授業に出席すること (欠席した場合には教員から指示された課題を提出すること等) が必要となる。				筆記試験	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 5 社会的養護』(2018、伊藤嘉余子・福田公教編著、ミネルヴァ書房) 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
	時間数				
1. オリエンテーション・社会的養護の動向と現状	2	9. 社会的養護の実施体制			2
2. 社会的養護で暮らす子ども	2	10. 社会的養護の枠組み—パーマネンシーという視点—			2
3. 社会的養護を支える理論	2	11. 施設養護 (1) —機能と役割—			2
4. 社会的養護の必要性	2	12. 施設養護 (2) —レジデンシャルワーク—			2
5. 子どもを産み育てるということ	2	13. 家庭養護 (1) —里親制度—			2
6. 社会的養護の歴史 (1) —古代から大正期まで—	2	14. 家庭養護 (2) —小規模住居型児童養育事業—			2
7. 社会的養護の歴史 (2) —昭和期から現代まで—	2	15. 家庭養護 (3) —養子縁組制度—			2
8. 社会的養護の歴史 (3) —近年における課題—	2				
その他		関連科目	社会的養護 II S		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y137
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクカテイソウロン 教育課程総論		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	2	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	将来保育に関する専門職に就こうとする一人ひとりの者が、他からの借り物の計画に頼るのではなく、自分の担当する子ども達の実態に即して、自主的に教育計画を編成することができるようになるために必要な基本的な力を養う。				
思考力・判断力・表現力	保育施設の教育目標や教育課程の意義・目的を深く理解する力。				
学びに向かう力	教育目標の設定、学びの評価方法、社会的背景を考慮した教育計画など、多面的な観点から子どもの教育を構築する力を養う。				
授業の概要					
教育課程の基礎理解を目的とし、教育の目的・内容・編成原理を踏まえ、課程編成の理論と実践的視点を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること 				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 保育の全体計画の概要	2	8. 指導計画の作成			2
2. 保育の全体計画の意義	2	9. 幼稚園における教育課程の実際			2
3. 保育の計画と保育内容の変遷	2	10. 保育園における教育課程の実際			2
4. 教育・保育要領1章における保育の計画	2	11. 保育の全体計画の編成の実際			2
5. 教育・保育要領3章における保育の計画	2	12. 保育の全体計画の作成 保育目標			2
6. 保育の全体計画と指導計画	2	13. 保育の全体計画の作成 各学年の計画			2
7. 指導計画の実際	2	14. 保育の全体計画の作成 まとめ			2
		15. 保育の計画発表			2
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y138
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクホウホウロン ----- 教育方法論		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	この授業では、幼児教育の方法や技術に関する基礎理論を理解する。				
思考力・判断力・表現力	さまざまな教育理論や教授法（直接教授法、協働学習、体験学習など）を理解し、場面に応じて使い分ける力。				
学びに向かう力	現在の幼稚園教育に関する基本的な考え方や子ども理解に必要な基礎的事項を学び、保育者の卵としてどのような願いを持ち、一人一人の乳児・幼児の育ちをどのように指導・援助していくことができるか方法を考え、実践する態度を育成する。				
授業の概要					
効果的な学習指導の基礎理解を目的とし、教授・学習過程の原理と多様な指導方法を踏まえ、教育実践に生かす視点を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度、授業記録提出による日常評価により決定する。 短大レポート、科目終末試験の成績を総合して評価する。 				短大試験	30%
				レポート	30%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学指定教科書、その他は授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション		2	9. 小学校との連携		2
2. 保育という方法		2	10. 家庭や地域と連携した保育		2
3. 環境を通しての教育		2	11. 保育におけるカウンセリングマインド		2
4. 遊びを通しての指導		2	12. まとめ		2
5. 主体的な生活を基盤とする保育		2			
6. 遊びの中の学びをはぐくむ保育		4			
7. さまざまな保育形態		4			
8. 保育における評価		4			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y139
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウシヨクガイロン ----- 教職概論		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	2	望月 満美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	教育とは何か。教師とはどういう仕事か。教師の歴史から指導方法や指導技術、またその考え方などについて理解しながら、どのような教師になりたいのか、理想とする教師像を自分で考えイメージできるようにする。				
思考力・判断力・表現力	教育に関する理論や概念を理解しそれを実際に現場でどう適用するか考えたり、保育現場に出た時保護者と円滑なコミュニケーションを図る為の力などを養う。				
学びに向かう力	授業に積極的に参加し、意教育に対し興味を抱き探求する姿勢が見られる。				
授業の概要					
基本的に教科書に沿って教育や教師について学習しながら、自分の教師としてのイメージを育て、そして教師になる自覚を確立していく。また、授業を通して学習した知識や、自分の考えを自分の言葉で表現する小テストを数時間に一度行う。					
成績評価基準					
授業態度、出席状況、ノート作成状況、授業内の小テスト等を総合して評価する。				小テスト	40%
				ノート	30%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
新訂 教職入門 未来の教師に向けて 古橋和夫編 (萌文書林)					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	教育とは何か		4		
2.	教職とは何か		4		
3.	日本における教師の歴史		8		
4.	現代社会の子ども		5		
5.	学校を支える人々と仕事		5		
6.	教師をめぐる新しい動き		1		
7.	教師を巡る法律		1		
8.	教育改革とこれからの教師		1		
9.	教育の専門性と研修		1		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y142
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジッシュウインドウイチ ----- 実習指導 I		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	2	長谷川 智子 三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育プレ実習に向け、保育実習に臨む態度、子ども理解等準備を行う。また、実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。				
思考力・判断力・表現力	実習の目的や学習目標を明確にし、それを意識して行動する力。				
学びに向かう力	保育実習や教育実習を効果的に行うために、事前に必要な知識や心構えを学び、事後に振り返りや課題の整理を通じて成長するために、理論と実践の橋渡しをする力を身につける。				
授業の概要					
保育実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりとする。					
成績評価基準					
授業態度、課題、提出物の状況を総合評価し、合計60点以上のものに単位を与える。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. オリエンテーション	2	8. 指導案とは	4		
2. 実習とは 実習の種類	4	9. 園見学	4		
3. 保育園・幼稚園・こども園	4	10. 園見学事後指導	4		
4. 名札作り	2	11. 教材作成②	4		
5. 園見学準備	4	12. プレ実習準備	4		
6. 教材作成①	4	13. 振り返り まとめ	6		
7. 実習日誌とは	4				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26145
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクキン 音楽基礎		演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	60	2	竹中 紀江
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育者として保育現場に必要な基礎的な演奏技能を学び、読譜が出来るよう音楽的理論の知識を得る				
思考力・判断力・表現力	自ら取り組む事により音楽の楽しさを知り、音楽の表現に必要な力を養う。				
学びに向かう力	現場で活用できる技術を習得できるように練習に励み、自ら不明な点を質問するなど意欲的な姿勢であること。				
授業の概要					
こども達に歌い聞かせるための声楽の基礎を学ぶと共に、こどもの歌に必要なコード伴奏の基本、3つの主要コードを学び、保育現場で活用できるよう、伝えるための弾き歌いの基本的な技術を学ぶ。季節のうた、生活のうたなどのこどもの歌の知識を得ながらレパートリーとして習得していく。					
成績評価基準					
ピアノ、声楽の実技試験と課題への取り組み状況による日常評価により決定する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 授業中に実施する課題ごとの評価を受けること。				実技試験	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
音楽I《ピアノ教本》、《声楽教本》、教員が配布する楽譜 保育士のためのこどものうた名曲集150					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. こどもの歌「春」ハ長調主要コード基礎	7	7. こどもの歌「生活のうた」	7		
2. こどもの歌「手遊び」 ハ長調主要コード基礎	6	コード応用①			
3. 課題テスト	2	8. こどもの歌「秋」コード応用②	6		
4. こどもの歌「夏」ト長調主要コード基礎	6	9. 課題テスト	2		
5. こどもの歌「夏」 ハ長調、二長調主要コード基礎	7	10. こどもの歌「冬」コード応用③	6		
6. 課題発表	2	11. こどもの歌「いろいろなうた」 コード応用④	7		
		12. 課題発表	2		
その他		関連科目			
実務経験のある教員が担当する科目である。		初級I II 中級I II 上級 幼児と音楽表現S 音楽表現(指導法) 音楽表現技術			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26146
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクシヨキユウイチ 音楽初級 I		演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択必修	60	2	竹中 紀江
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育者として保育現場に必要な基礎的な演奏技能を学び、読譜が出来るよう音楽的理論の知識を得る。				
思考力・判断力・表現力	自ら取り組む事により音楽の楽しさを知り、音楽の表現に必要な力を養う。				
学びに向かう力	現場で活用できる技術を習得できるように練習に励み、自ら不明な点を質問するなど意欲的な姿勢であること。				
授業の概要					
バイエル教則本を基本とした曲を中心に、保育現場で活用できるようなピアノ演奏するための基本的な技術を習得し、読譜の理解を深めていく。個々の力量に合わせた指導を行う。 前期にバイエル66番、後期に80番を習得できることを目標とする。					
成績評価基準					
ピアノ、声楽の実技試験と課題への取り組み状況による日常評価により決定する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。 授業中に実施する課題ごとの評価を受けること。				実技試験	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
音楽 I 《ピアノ教本》、《声楽教本》、教員が配布する楽譜 保育士のためのこどものうた名曲集 150					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. 真ん中のド～ソ右手左手両手基礎①②	2	7. 課題テスト			2
2. バイエル指のトレーニング 1～5, 15, 29, 48, 49, 52 番個々の力量に合わせて	8	8. バイエル 77, 69, 70, 76, 75, 番個々の力量に合わせて			13
3. 課題テスト	2	9. 課題テスト			2
4. ハ長調音階 基礎②	1	10. バイエル 78, 80 番個々の力量に合わせて			13
5. ト長調、ニ長調、ヘ長調音階 基礎③	3	11. 課題テスト			2
6. バイエル 58, 55, 66 番個々の力量に合わせて	12				
その他	関連科目				
実務経験のある教員が担当する科目である。	初級Ⅱ 中級Ⅰ Ⅱ 上級 幼児と音楽表現 S 音楽表現(指導法) 音楽表現技術				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26147
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクシヨキユウニ 音楽初級Ⅱ		演習	対面	こども保育科1	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択必修	60	2	竹中 紀江
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育者として保育現場に必要な基礎的な演奏技能を振り返りながら、更なる演奏技術を習得する。				
思考力・判断力・表現力	自ら取り組む事により音楽の楽しさを知り、音楽の表現に必要な力を養う。				
学びに向かう力	現場で活用できる技術を習得できるように練習に励み、自ら不明な点を質問するなど意欲的な姿勢であること。				
授業の概要					
<p>バイエル教則本を基本とした曲を中心に、保育現場で活用できるようなピアノ演奏するための技術を習得し、音楽表現法を知る。バイエル後半から習得し、弾き歌いの取り組みと歌唱に伴うピアノ伴奏を行い、こどものレパートリーを増やす。個々の力量に合わせた指導を行う。</p> <p>バイエル100番を習得することを目標とし、ブルグミュラー導入を目指す。</p> <p>前期、後期各学期にて、こどもの歌8曲以上を習得する事を目標とする。</p>					
成績評価基準					
<p>ピアノ、声楽の実技試験と課題への取り組み状況による日常評価により決定する。</p> <p>授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。</p> <p>授業中に実施する課題ごとの評価を受けること。</p>				実技試験	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
<p>音楽Ⅰ《ピアノ教本》、《声楽教本》、教員が配布する楽譜</p> <p>保育士のためのこどものうた名曲集150</p>					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. ハ長調、ト長調音階 基礎①	2	7. バイエル ブルグミュラー こどもの歌 個々の力量に合わせて	13		
2. ニ長調、ヘ長調音階 基礎②	2	8. 課題テスト	2		
3. バイエル 94, 96, 97 番個々の力量に合わせて	9	9. バイエル ブルグミュラー こどもの歌 個々の力量に合わせて	13		
4. 課題テスト	2	10. 課題テスト	2		
5. バイエル 100 番、こどもの歌個々の力量に合わせて	13				
6. 課題テスト	2				
その他	関連科目				
実務経験のある教員が担当する科目である。	初級Ⅰ 中級Ⅰ Ⅱ 上級 幼児と音楽表現S 音楽表現(指導法) 音楽表現技術				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26148
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクチュウキュウイチ 音楽中級 I		演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	選択必修	60	2	竹中 紀江
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育者として保育現場に必要な演奏技能を習得し、子供達に伝えるための音楽表現方法を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	自ら取り組む事により音楽の楽しさを知り、音楽の表現に必要な力を養う。				
学びに向かう力	現場で活用できる技術を習得できるように練習に励み、自ら不明な点を質問するなど意欲的な姿勢であること。				
授業の概要					
<p>高い技術が求められるブルグミュラー25の練習曲前半の曲を中心に、保育現場で活用できるようなピアノ演奏するための更なる技術を習得し、更なる音楽表現法を知る。こどものレパートリーをさらに増やし、保育現場で実践できる技量を高める。個々の力量に合わせた指導を行う。</p> <p>ブルグミュラー25の練習曲1番～11番、15番より1曲以上習得する事を目標とする。</p> <p>前期、後期各学期にて、こどもの歌8曲以上を習得する事を目標とする。</p>					
成績評価基準					
<p>ピアノ、声楽の実技試験と課題への取り組み状況による日常評価により決定する。</p> <p>授業の20%を超えて欠席した場合は不可(試験を受けられない)とする。</p> <p>授業中に実施する課題ごとの評価を受けること。</p>				実技試験	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
<p>音楽 I 《ピアノ教本》、《声楽教本》、教員が配布する楽譜</p> <p>保育士のためのこどものうた名曲集 150</p>					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. ハ長調、ト長調音階 応用①	2	7. ブルグミュラー こどもの歌			13
2. ニ長調、ヘ長調音階 応用②	2	個々の力量に合わせて			
3. ブルグミュラー こどもの歌	9	8. 課題テスト			2
個々の力量に合わせて		9. ブルグミュラー こどもの歌			13
4. 課題テスト	2	個々の力量に合わせて			
5. ブルグミュラー こどもの歌	13	10. 課題テスト			2
個々の力量に合わせて					
6. 課題テスト	2				
その他		関連科目			
実務経験のある教員が担当する科目である。		初級Ⅱ 中級Ⅱ 上級 幼児と音楽表現S 音楽表現(指導法) 音楽表現技術			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y153
授業科目名		授業形態		学科・コース	
エホン ----- 絵本		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児教育の視点から絵本について考察し、知識・技術を習得していく。絵本の種類や選び方・読み聞かせの方法等、実践を通して学んでいくことを目標とする。				
思考力・判断力・表現力	絵本のストーリーや登場人物の行動を理解し、物語のテーマやメッセージを考える力や、絵本を見て感じたことなどを自分の言葉で表現できるようになる。				
学びに向かう力	絵本に興味を持ち、絵本を通しクラスメイトなどと意見交換をしたりディスカッションをしたりする中で他者の考えを尊重する姿勢でいる。				
授業の概要					
絵本の教育的価値理解を目的とし、作品選択・読み聞かせ・表現活動を通して保育に生かす実践的な活用方法を学ぶ。絵本は、幼児期に育てていきたい多くの要素をもっている。自身も楽しみながら多くの絵本に触れてほしい。					
成績評価基準					
期末試験は絵本を実際に全員の前で読む実技試験とする。読み方や声の大きさ、聞きやすさ等、絵本を読む上でのポイントを押さえているかどうかを評価する。また、毎時間作成する絵本リストを課題とし、授業態度と合わせて総合判断する。				授業態度	40%
				期末試験	60%
使用テキスト・教材					
授業内プリント					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. 絵本とは			2		
2. 絵本の種類			6		
3. 子どもの発達に応じた絵本			8		
4. 読み聞かせの方法・実践			6		
5. 絵本リスト作成(各授業)			2		
6. 教材研究			2		
7. 紙芝居			2		
8. 素話まとめ			2		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y154
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウザイカイハツキン 教材開発基礎		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	2	佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育園や幼稚園で活動や指導をする際、教材研究が必須となる。対象となる子どもに合わせ準備ができるよう様々な知識を習得するとともに、柔軟な対応ができる思考力を養う。				
思考力・判断力・表現力	教材の意図や目的を分析し、子どもの成長に効果的であるかどうかを見極める。また適切な内容にするための視点を持ち、具体的なアイデアを考える。				
学びに向かう力	子どもの学びの効果を高めるために、単なる知識伝達ではなく、深い学びや自律的な学習を支える力を身に付ける。				
授業の概要					
教材研究には、いろいろな方法がある。製作を例に挙げても、何を作るか、保育者がどこまで準備をするか、材料は何を使うか、道具は何を用いるのか、1日でどこまで進めるか等、検討することはさまざまである。まずは保育教材を開発するための基礎知識を習得していく。					
成績評価基準					
授業態度、課題提出の状況を総合評価し、合計60点以上のものに単位を与える。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 「教材研究」とは		2	10. 遊具		2
2. 道具 (着色・描くもの)		2	11. 玩具		2
3. 道具 (切るもの)		2	12. 子どもに適した活動とは		2
4. 道具 (貼るもの)		2	13. 教材研究 (グループワーク) 製作		2
5. お道具箱とは		2	14. 教材研究 (グループワーク) 遊び		2
6. 素材 (廃材)		2	15. 教材研究 (グループワーク) 行事		2
7. 素材 (紙)		2			
8. 素材 (その他)		2			
9. こどもの発達に合った準備とは		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y157
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクエンゲンガク ----- 保育園見学		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実際の保育現場で見学を行うことで、保育園での業務内容や保育士として必要な経験を積む。				
思考力・判断力・表現力	保育所や幼稚園の一日の流れや、活動の構成を理解する力。				
学びに向かう力	実際の保育現場を体験する前に、現場の基本的な流れや保育者の役割を理解し、保育実習本番に向けた準備をする。				
授業の概要					
こどもや保育現場への理解を深めることを目的とし、園の環境構成や保育教諭の関わりを観察し、実践への基礎的視点を学ぶ。					
成績評価基準					
授業意欲・見学の態度等の姿勢を日常評価とする。				日常評価	70%
				課題	30%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション		2			
2. 保育園見学		14			
3. 反省・考察		4			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y158
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウチエンケンガク 幼稚園見学		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実際の教育現場で見学を行うことで、幼稚園での業務内容や幼稚園教諭として必要な経験を積む。				
思考力・判断力・表現力	保育所や幼稚園の一日の流れや、活動の構成を理解する力。				
学びに向かう力	実際の幼児教育現場を体験する前に、現場の基本的な流れや幼稚園教諭の役割を理解し、教育実習本番に向けた準備をする。				
授業の概要					
こどもや幼児教育現場への理解を深めることを目的とし、園の環境構成や保育教諭の関わりを観察し、実践への基礎的視点を学ぶ。					
成績評価基準					
授業意欲・見学の態度等の姿勢を日常評価とする。				日常評価	70%
				課題	30%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション		2			
2. 幼稚園見学		14			
3. 反省・考察		4			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y160
授業科目名		授業形態		学科・コース	
アソビノキノ 遊びの基礎		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	20	1	小笠原 香奈 岩塚 咲子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児の遊びの意義や発達の役割を理解し、遊びの種類や特徴を体系的に説明できる力を身につける。				
思考力・判断力・表現力	こどもの遊びの姿を観察し、発達のねらいに応じた援助や環境設定を考察し、適切に判断できる力を育てる。遊びを通した学びを意図的に構成し、その意図を他者に説明・表現できる力を養う。				
学びに向かう力	こどもの遊びに寄り添う保育者として、自ら進んで遊びを理解しようとする姿勢や、保育現場で継続的に学び続ける態度を育む。				
授業の概要					
遊びの意義と発達の役割理解を目的とし、幼児の遊びの特徴や保育者の基本的関わりを学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				日常評価	50%
				課題	50%
使用テキスト・教材					
遊びの指導					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション 遊びとは			2		
2. 体操・遊び (1・2歳児)			4		
3. 体操・遊び (3歳児)			4		
4. 体操・遊び (4歳児)			4		
5. 体操・遊び (5歳児)			4		
6. まとめ			2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB29Y165
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモホイクソウゴウエンシュウイチ こども保育総合演習 I		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	通年	必修	30	1	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	校内での保育実践やさまざまな園に出向く中で、こどもとかかわる経験、保育者から学ぶ経験を増やし、実践的な経験を積む。				
思考力・判断力・表現力	これまでに学んだ各科目の知識を結びつけ、課題に応じた適切な解決策を導き出す力。				
学びに向かう力	実践的な課題やプロジェクトに取り組むことで、専門的なスキルを深化させ、社会や現場で役立つ総合力を高める。				
授業の概要					
保育の基礎的理解の整理を目的とし、学んだ知識と技能を振り返りながら、保育実践に必要な基本的視点を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				日常評価	60%
				課題	40%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1.	オリエンテーション	2			
2.	縦割り遠足	4			
3.	縦割り交流	4			
4.	実習報告会	4			
5.	縦割り交流	4			
6.	就職説明会	4			
7.	卒業研究発表会	4			
8.	まとめ	2			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y168
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガク リロン 音楽 (理論)		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	15	2	小林 教子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	音楽の基礎理論として、楽譜の読み方や書き方、楽譜からの情報の読み取り方について学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	音楽を構成するリズム、メロディ、ハーモニーなどの要素を理解する。また自分の感情や考えを音楽で表現する力を養う。				
学びに向かう力	どのようにしたら綺麗に表現できるか改善をしようとしたり、上手になれるか意欲的に取り組もうとする姿勢が見られる。				
授業の概要					
音楽の基礎理論理解を目的とし、音階・和音・リズムなどの体系的知識を通して、演奏や表現に生かす理論的基盤を学ぶ。					
成績評価基準					
出欠席及び平常点等の日常評価と筆記試験の結果で評価する。 授業の20%を超えて欠席した場合は不可 (試験を受けられない) とする。				日常評価	50%
				期末試験	50%
使用テキスト・教材					
ジュニアクラスの楽典問題					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 楽典とは		2			
2. 楽譜の書き方・読み方・意味		4			
3. 音符と休符		4			
4. 拍子とリズム		4			
5. 奏法記号		4			
6. 音程		4			
7. 音階		4			
8. コード奏法		2			
9. まとめ		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y1S01
授業科目名		授業形態		学科・コース	
エイカイワイチエス ----- 英会話 IS		演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	笹原 涼子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	日常の会話を英語で楽しむことができるようにするために、簡単な会話に欠くことができない基礎を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	言いたいことが伝わらない場合でも、別の言い回しやジェスチャーで工夫して伝える力や、完璧に話せなくても、コミュニケーションを取ろうとする積極性を持つ。				
学びに向かう力	実践的な場面で応用する力や、継続的に学び続けることで、よりスムーズで自信のある英会話を身に付ける。				
授業の概要					
具体的に場面が設定された会話や、それに伴う発音などを耳から学ぶ。					
成績評価基準					
授業態度等の日常評価と授業中の課題、最終回に行う試験結果を総合し評価とする。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				筆記試験	40%
				課題	30%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
Happy English for Childcare (短大指定テキスト)					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. UNIT		4			
2. ジェスチャー		4			
3. こどもが病気になったとき		4			
4. 動物の鳴き声		4			
5. 試験		4			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S02
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ショウガイスポーツイテュス 生涯スポーツ I S		実技	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	1	小野 昌佳
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解し、基礎的な技能を習得する。				
思考力・判断力・表現力	年齢や体調の変化に応じて、スポーツの種類や方法を柔軟に変えていく力を身につける。				
学びに向かう力	技術向上や健康の増進だけでなく、心身ともに豊かな生活を送る力を育む。				
授業の概要					
生涯にわたる健康づくりの基礎理解を目的とし、各種スポーツの体験や実技を通して、生涯にわたる健康づくりに生かす実践的な運動方法を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業の参加態度による日常評価。 授業中に提示した課題の評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	40%
				日常評価	60%
使用テキスト・教材					
授業受講に際し、運動できる服装、体育館履き、水分補給できるもの、製作セットを持参すること。					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
		時間数			
1. 授業説明と評価説明、体操		2	9. 授業内で各運動につながる、廃材で		2
2. コミュニケーションゲーム		2	できる手作りおもちゃ		4
3. アイスブレイキングゲーム		2	10. 運動あそび・スポーツの指導計画		4
4. こどもを対象とした運動あそび①		2	11. まとめ		
5. こどもを対象とした運動あそび①		2			
6. ストレッチ、体操		2			
7. 球技① (基本動作とゲーム)		4			
8. 球技② (基本動作とゲーム)		4			
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S03
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジョウホウショリニューモンイチエス 情報処理入門 IS		講義	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必須	20	1	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	コンピュータの発達過程やハードウェアの仕組みについて学ぶ。また、インターネットを活用し、最新技術や動向について学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	情報処理の基本的な概念や用語を素早く理解し、実践に活かす力を身につける。				
学びに向かう力	コンピュータの基本的な使い方やデータ処理、プログラミングの基礎、デジタル社会での情報の扱い方を学び、情報の効果的な活用や問題解決能力を高め、現代社会でのデジタルリテラシーを強化する。				
授業の概要					
出席が必要であり、保育などの仕事の現場で情報処理に関する話題・用語が出た場合に、その話の内容を理解し、自分なりに判断できるレベルの知識を習得する。さらに、IT化の社会問題、健康問題を取り上げる。					
成績評価基準					
期末に実施する本試験、授業時に提示した課題提出と日常評価により決定する。 ・期末に実施する筆記試験において60点以上であること。 ・授業中に提示した課題を70%以上提出すること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				筆記試験	50%
				課題	30%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
「情報処理入門」近畿大学九州短期大学通信教育部					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
			時間数		
1.	ネットワーク		2		
2.	インターネット		2		
3.	ネットワークの脅威		2		
4.	ワーム		2		
5.	情報セキュリティ		2		
6.	情報セキュリティとは		2		
7.	最近のセキュリティ問題		2		
8.	IT社会の問題		2		
9.	(1)ネットワーク依存症		2		
10.	(2)健康への影響		2		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S04
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジトオンガクヒョウゲンエス 幼児と音楽表現S		演習	対面	こども保育科	
履修年次	開講時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	竹中 紀江
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児教育に携わる保育者の音楽の技術の習得や、資質の向上が出来る。				
思考力・判断力・表現力	音楽を通じて感性や表現力、コミュニケーション力を育む。				
学びに向かう力	合唱や合奏、アンサンブルによって個々の能力を高め合い、音楽の楽しさを知る。				
授業の概要					
発声法の基本と読譜力をつけ、こどもの歌のレパートリーを増やす。幅広い音楽の分野に耳を傾け、楽器演奏に必要な知識や技術を正しく学び、アンサンブルの楽しさを学ぶ。					
成績評価基準					
授業内での発表、課題への取り組み状況による日常評価により決定する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				発表	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
音楽 I 《ピアノ教本》、《声楽教本》、教員が配布する楽譜					
授業内容・授業計画 (対面授業の場合は授業進行計画、オンデマンド授業は標準学習時間の積算)					
1. ミュージックベルアンサンブル 身近な曲からベルに相応しい曲を選曲し、英米音名を学び音程の感覚を養う。	2	4. 合唱 正しい発声法と正しい音程を習得し、歌う事の楽しさを共有する。	10		
2. トーンチャイムアンサンブル	2				
3. 合奏 楽器の特徴を捉え、リズム感を理解し、自分のパートに責任を持ち、奏する事の楽しさを共有する。	2	5. まとめ 発表	4		
その他	関連科目				
実務経験のある教員が担当する科目である。 この科目は補講を実施しない。	音楽基礎 初級 I II 中級 I II 上級 音楽表現 (指導法) 音楽表現技術				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S07
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクシンリガクエス 教育心理学S		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	子どもの学習行動の概念を学び、筋道を立てて考える思考の形成、勉強の仕方、学習に対する意欲・自発性・態度を肯定する価値観を軸にして、幼児の心理学について学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	自分の学びのスタイルや得意・不得意を理解し、効果的な学習法を見つける力や、自己の感情や動機を把握し、学びに対するモチベーションを維持する力を身につける。				
学びに向かう力	学びのプロセスや人間の発達、行動の理解を深めることで、自己の成長だけでなく、他者の学びをサポートできる力を身につける。				
授業の概要					
教育心理学の理解を深めることを目的とし、事例検討や演習を通して、発達や学習の心理を踏まえた支援の在り方を学ぶ。					
成績評価基準					
授業時に提示する課題と授業態度による日常評価により成績評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
実践に活かす保育の心理学(ミネルヴァ書房)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 就学に向けて、幼、保、小連携		4			
2. 家庭ぐるみの教育的支援		4			
3. 子どもをめぐる教育的問題		4			
4. 選択理論心理学		6			
5. まとめ		2			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S08
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ケンコウ (シドウホウ) エス 健康 (指導法) S		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	現代の日本における疾病の現状と食生活を概観した上で、子どもの運動能力の現状理解と保育における生活習慣等を具体的に学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	健康や栄養、運動、心のケアなどに関する基礎知識を正確に身に付ける。				
学びに向かう力	保育者として健康の視点から現代の子どもに必要な保育内容を実践する力を培う。				
授業の概要					
領域「健康」の視点から、幼児の健康な生活習慣の形成を目的とし、食・休息・運動・衛生などの指導法を踏まえ、健やかな育ちを支える援助を学ぶ。					
成績評価基準					
授業時に提示する課題と授業態度による日常評価により成績評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	日本における健康の現状と対策		2		
2.	生活習慣と食生活		2		
3.	子どもの健康の現状		2		
4.	子どもの運動能力		2		
5.	子どもの運動能力と保育内容		2		
6.	教育・保育要領における健康		2		
7.	子どもの生活習慣遊		2		
8.	子どもの日常生活における安全		2		
9.	子どもと震災		2		
10.	まとめ		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S09
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ニンゲンカンケイ (シドウホウ) エス 人間関係 (指導法) S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼稚園教育要領の中の「人間関係」の分野に焦点を当て、理解を深める。				
思考力・判断力・表現力	自分の性格や感情、コミュニケーションの癖を理解し、他者との関わり方を見直す力を身につける。				
学びに向かう力	こどもは生活や遊びの場面で、関わりながら育っている。保育者を志す者として、乳幼児期の発達を見る視点、こどもが人と結び合い豊かに関わること、保育者としての対応を学ぶ。				
授業の概要					
領域「人間関係」に関する知識を得て、子ども個人の成長と、仲間集団の成長との双方に配慮しながら、具体的な指導を行う実践力の基礎を培う。授業は、ビデオやグループでのアクティブラーニングを行う。					
成績評価基準					
出欠席及び平常点、課題提出、試験により評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				筆記試験	40%
				課題	30%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. オリエンテーション	2	7. 乳幼児期における人とのかかわりの発達	2		
2. 領域「人間関係」	2	8. 人とのかかわりが難しい子どもへの援助	2		
3. 遊びの中で育つ人との関わり、園生活における人とのかかわり	2	9. 領域「人間関係」をめぐる諸問題	2		
4. 様々な職業の人と関わる保育者	2	まとめ	1		
5. 人間関係にかかわる現代社会の状況	2				
6. 人との関わりを育てる保育とは	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S11
授業科目名		授業形態		学科・コース	
カンキョウ (シドウホウ) エス 環境(指導法) S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育内容の5領域の1つである「環境」という側面から子ども理解を深め、具体的な保育内容を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、実施の体験やグループワークを通し、知識・技術・判断力を習得する。				
学びに向かう力	幼児や児童が身の回りの自然、社会、生活環境について主体的に気付き、興味を持ち、持続的に学び続けるために、子どもが環境と関わりながら学べるような活動の工夫や、環境への感謝や共生の意識を育む力を身につける。				
授業の概要					
領域「環境」の視点から、幼児が環境とかかわり学ぶ力を育むことを目的とし、興味を広げる活動設定や探求を支える指導法と環境づくりを学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	70%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
新しい保育講座9 保育内容「環境」(ミネルヴァ書房) その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 領域「環境」とは	2	7. 数量・図形に親しむ			2
2. 園の環境 子どもの発達と環境	2	8. 科学を体感する			2
3. 自然とふれあい感動する、自然を取り入れて遊ぶ	2	9. 標識や文字の必要感を育む身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする			2
4. 季節感を味わう	2	10. 指導形態とカリキュラム			2
5. 物事の法則性に気づく	2				
6. 生命の営みにふれる、身のまわりの物に愛着をもつ	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S12
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コトバ(シドウホウ) エス 言葉(指導法)S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育内容の5領域の1つである「言葉」という側面から子ども理解を深め、具体的な保育内容を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	物や事象を適切な言葉で表現する力を育てる。				
学びに向かう力	子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、実施の体験やグループワークを通し、知識・技術・判断力を習得する。				
授業の概要					
領域「言葉」の視点から、幼児の言葉の育ちを支えることを目的とし、聞く・話す・伝える力を伸ばすための援助や環境づくり、指導法を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	70%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 保育内容「言葉」とは、言葉をめぐるワークショップ		2	7. 言葉で表現する		2
2. 言葉の育つ道すじ		2	8. 言葉でのかわりに配慮を必要とする子ども、言葉をめぐる相談の実際と対応言葉の発達と表現力		2
3. 言葉の前の言		2			
4. 1つの言葉で		2	まとめ		2
5. 人とつながる言葉		4			
6. 言葉で考える		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26S13
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ゾウケイヒョウゲン (シドウホウ) エス 造形表現(指導法)S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	20	1	望月 裕史
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育での表現活動を円滑にするために欠くことのできない適格な掲示物づくりや、児童の表現活動等における指導力を身につける。				
思考力・判断力・表現力	素材や技法を自由に使いこなし、個性豊かな造形表現を生み出す。				
学びに向かう力	モダンテックを中心とした作品制作をとおして基礎を身に付け、個々の表現力を伸ばしていく。				
授業の概要					
授業は準備から大切になる。忘れ物をせず授業に臨み、指導者の模範制作を見て理解することから授業は始まる。集中力のある制作、個性の発揮等を大切にし、最後まであきらめずに仕上げ、確実に提出することが重要である。					
成績評価基準					
作品の完成度や授業への意欲、持ち物などを中心に広く総合的に評価し決定する。なお作品が1つでも未提出であれば成績の評価は行われない。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・造形表現 (指導法) 近畿大学九州短期大学 ・絵具を中心とした画材 					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. オリエンテーション		2	4. 2-1. スタンピング		2
① 授業のきまり ②内容 ③評価について			5. 2-2. ドリッピング		2
2. デッサン		2	6. 2-3. バチック		2
①画鉛筆で各自持参した野菜など自然物を描く。毎回継続してデッサンを行う(6回)			7. 2-4. スクラッチ		1
3. 色の学習を学びながらモダンテックの実習、作品作り		1	8. 2-5. スパッターリング		1
			9. 2-6. たたきぼかし		1
			10. 2-7. デカルコマニー		1
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S15
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ゲンゴビョウゲンエス 言語表現S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児期の言語発達の特徴や段階、発達を支える環境構成について理解する。発達に応じた言語表現活動の計画や教材の選び方・使い方を身につける。				
思考力・判断力・表現力	こどもの姿を読み取り、適切な言語的かかわり方や活動を選択・判断する力を育てる。こどもの興味や発達段階に合わせて、保育者として柔軟にことばの表現活動を構成できる力を養う。				
学びに向かう力	こどもの言葉の育ちに寄り添い、丁寧に関わる保育者としての姿勢や態度を育む。				
授業の概要					
幼児の言語発達理解を目的とし、ことばの獲得過程を踏まえた語り・対話・表現活動を通して発達を支える援助方法を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	70%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	人形劇・紙芝居・ペープサート・シアター		2		
2.	ペープサート作りを計画・作成し、使い方・活用法を学ぶ		2		
3.	児童文化財の作成 (立案)		4		
4.	児童文化財の作成		8		
5.	発表・まとめ		4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S20
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクヒョウゲン (シドウホウ) エス 音楽表現(指導法) S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	岩塚 咲子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼児期にとってどのようなことが必要なのか考え、保育者にとって必要な環境設定法や創造・感情豊かにしていくための援助法について、実践的表現活動を通して学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	音楽理論やリズム、メロディー、音程、テンポなど、音楽表現の基礎を理解する力。				
学びに向かう力	音楽的なあやし言葉かけ遊びや月齢に応じたリズム遊びを創作し、実践していく。				
授業の概要					
実践的表現活動を通し、音楽的なあやし言葉かけ遊びや月齢に応じたリズム遊びを創作し、実践していく。保育者として感性豊かな人間性を育てられるように、積極的に実践活動に取り組んでほしい					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	70%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
授業内で提示する。					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 月齢にあわせたリズム遊び		4			
2. グループでの指導案作成		4			
3. 実践事前指導		4			
4. 3・4歳児での実践実習		6			
5. 5歳児での実践実習		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S21
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ゲキアソビ (シドウホウ) エス		演習	対面	こども保育科	
劇あそび (指導法) S					
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	こどもの発達段階を踏まえた劇遊び・劇づくりのプロセスを理解し、製作や実演の仕方を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	こども一人ひとりの表現したい気持ちを大切にし、自由に演じられる環境を整える力。				
学びに向かう力	劇遊びの基礎的な知識を獲得し、それを生かして劇遊び・劇づくりを考え、保育の中で実践できること。				
授業の概要					
領域「表現」の視点から、幼児の表現力を育むことを目的とし、役になりきる経験や集団での創作活動を通して、劇あそびの指導法と援助を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 課題を出した時の提出物で評価する。 授業内での発表や製作物の取り組みを日常評価とする。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
必要な資料をプリントとして配布					
授業内容・授業計画					
1. こどもの劇遊び・劇づくりについて学ぶ 身近な音・声・言葉・身振りの表現方法を考える (擬声語・擬態語)	2	4. グループに分かれて、劇遊びに必要なものを製作する (配役のお面・持ち物等)	10		
2. 絵本や保育教材を利用した導入方法を学ぶ (大型絵本・エプロンシアター等) 劇遊びに必要なお面 (動物) 製作をし、簡単にできる劇遊びごっこ方法を学ぶ	4	5. こどもの劇遊びの展開を考え、劇の発表までに練習をする。 (必要に応じ、背景や音響等、劇に必要なものを用意する)	2		
3. グループに分かれて、劇遊びの計画を立てる (台本・配役・必要なもの等)	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S29
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクジッシュウジゼンゴシドウエス 教育実習事前事後指導S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。保育実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。				
思考力・判断力・表現力	実習の目的や意義をしっかりと理解し、それに沿った準備や振り返りを行う力。				
学びに向かう力	実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。				
授業の概要					
観察実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 実習の理念 (意義・目的・内容)、幼稚園・保育所・こども園の違い		2			
2. 幼稚園の一日／実習生の心構え		4			
3. 実習に向けての諸注意		4			
4. 実習日誌・部分実習案の書き方		6			
5. 子どもの発達と注意点		4			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB261S30
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクジッシュウイチエス 教育実習①S		実習		こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	専門科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。				
思考力・判断力・表現力	子どもの行動や反応を観察し、学びの状況を適切にかかわる力。				
学びに向かう力	見学・観察実習を主とする実習を行い、幼児教育の理解を深める。				
授業の概要					
幼稚園教育の基礎理解を目的とし、観察実習を通して、こども理解や活動内容、教師としての基本的態度と初歩的な実践力を学ぶ。幼稚園にて1週間実習（観察実習）を行う。					
成績評価基準					
実習態度、課題、提出物の状況を総合評価し、決定する。 ※実習不合格の場合は不可とし、再実習とする。				課題	30%
				実習評価	70%
使用テキスト・教材					
適宜					
授業内容・授業計画					
1. 幼稚園での実習			時間数 30	時間数	
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y1S33
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクナイヨウソウロンエス 保育内容総論S		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	標準時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	20	1	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	幼稚園教育要領及び保育所保育指針を踏まえて、保育園・幼稚園において展開される保育内容について、基本的な考え方を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	各領域が相互に関連していることを理解し、バランスの取れた保育を行うための基礎を築く。				
学びに向かう力	保育活動は、5領域のねらいが総合されていることを理解し、保育の計画性・教材研究・環境構成について理解を深めていく。				
授業の概要					
保育内容の基礎理解を目的とし、5領域の理念と相互関連を踏まえ、幼児の学びを支える保育内容の構成と援助の在り方を学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 必要な資料をプリント 					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		
1. どんな保育者になりたいか？ 自分の目標をもつ	2	7. 保育の中での環境構成の工夫について	2		
2. 幼稚園・保育園・認定子ども園の比較、 それらの1日の保育の流れと保育形態	2	8. 保育に役立つ教材(導入に使うなど) 作りの計画をし、制作する	4		
3. 子ども・子育て支援新制度について	4				
4. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基 づく保育内容の理解	2				
5. 様々なあそびや活動と5領域の関連に ついて	2				
6. 保育の生活の中での環境構成・援助と 指導について学ぶ	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					